ガラス表面応力計

model: FSM-6000X

本体標準価格 可視光タイプ ¥2,500,000

強化ガラスの表面応力測定装置

本製品は、ガラスの表面に沿って光を伝搬させ、光弾性技術により表面の応力やその深さを測定するものです。
特に、化学強化ガラスの測定は本製品が唯一の表面応力測定装置です。
また、測定者による誤差が少なく、製品の開発や管理等に優れた機能を発揮します。

・プリズム形状が変わり、浸液による汚損の影響を受け難くなりました。

・調光方式が光学フィルター式から電気式に変わりました。

特徴

- 非破壊測定
- 自動測定により測定者の個人差がない
- PCにデータ保存される為品質管理が容易
- 校正用標準器の使用で機差は最小限
- 測定結果の外部出力が可能
- 断面応力分布がグラフ表示される
- OK/NGの判定機能付き(標準装備)

オプション

- ガラス板厚の自動測定(厚み測定機能)
- 浸液供給装置 オートディスペンサー
- ワンタッチスイッチ(OK/NG判定機能時)

別売装置が必要です(別途カタログをご覧ください)

仕　様

タイプ	UV	可視光	IR
光源	LED 365±10 nm	LED 596±10 nm	LED 790±10 nm
測定範囲CS*	0-1000 MPa	0-1000 MPa	0-1000 MPa
測定範囲DOL*	5-50 um	10-100 um	10-200 um
繰り返し精度	CS ±5 MPa, DOL ±3 um (基準ガラス測定時)		
測定精度	CS ±20 MPa, DOL ±5 um (基準ガラスの精度)		
測定対象	化学強化ガラス、物理強化ガラス		
サンプル形状	平面 10×10 mm以上		
PC	専用 (OS、測定ソフト インストール済み)		
OS	Windows 10/11 64 bit		
ソフトウェア	FsmX		
重量	14 kg (本体)、6 kg (PC)、3 kg (モニター)		
寸法	280*600*220 mm (本体)、290*93*292 mm (PC)、512*180*397 mm (モニター)		

＊表記の測定範囲は目安となります。実際には、ガラスの光弾性定数や屈折率分布によって異なります。

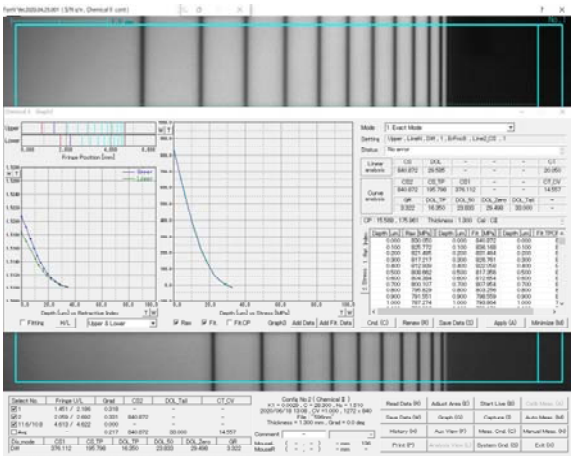
ORIHARA
INDUSTRIAL CO.,LTD

測定波長

可視（596nm）

特徴：
標準的なタイプ。D線に近い波長であり、硝材の屈折率、光弾性定数の情報が得やすい。

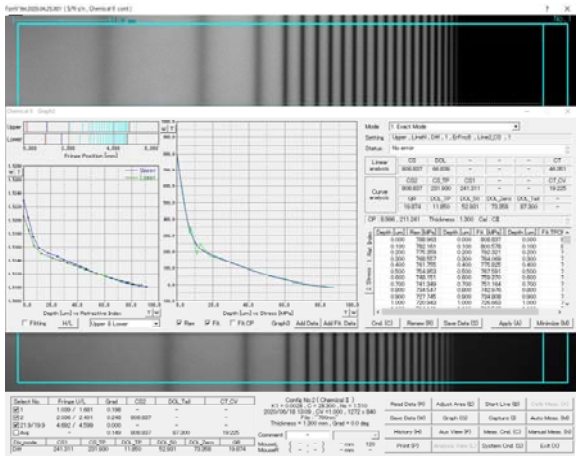
測定例：
化学強化ガラス（KNO3の1回強化）



IR（790nm）

特徴：
検出される縞本数が少ない。縞がたくさん検出され過ぎて、正確に読み取ることが難しい場合に有効。

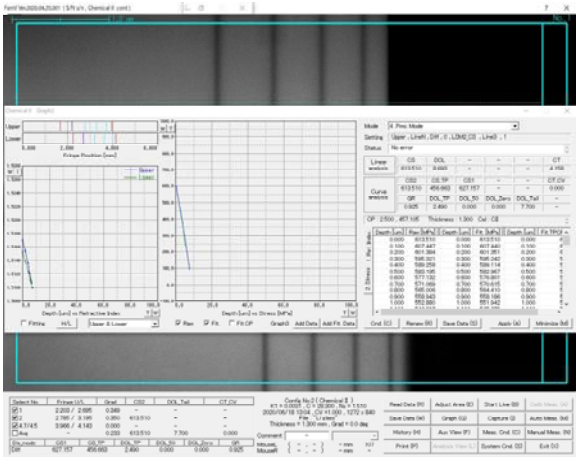
測定例：
化学強化ガラス（KNO3の2回強化）



UV（365nm）

特徴：
可視光に対して、縞本数が1.5倍ほど増える。縞本数が少な過ぎて上手く測定できない場合に有効。

測定対象：
化学強化ガラス（NaNO3+KNO3の2回強化）
（表層のみ）



DUAL

可視 ＋ IR

可視 ＋ UV

有限会社　折原製作所
〒170-0013　東京都豊島区東池袋5-47-15
TEL　03-3985-9531　FAX　03-3985-9532
http://www.orihara-ss.co.jp　e-mail orihara@orihara-ss.co.jp